

# 春はあげぽよ

春はあげよぽだおー



Mom!  
Drink!

# RENAPON48

Twitter@RENAPON48 Tumblr <http://renapon48.tumblr.com/>

東京の中心から外へ外へと向かう黄色い郊外電車は、この小さな駅に2分ほど停まったのちにまた静かに走り出して私の髪を乱す。

我が子が私の左手を引きながら「何か飲みたい」と主張するけれど、私はそれを無視して改札へ向かう。スギ花粉の舞う日々が私にはとても苦しくて、昔はピンク色だったはずの「春」のイメージが今では灰色になってしまった。でも、そういえば夏は暑苦しくてべたべたするから好きではないし、秋は何故か毎年風邪を引くし、冬はあの人とお別れした季節なのでこれもまた好きではない。季節はこの4つを絶妙なバランスで回しながら、今日みたく春に帰ってくる。あの冬のお別れの手続きが一段落さえすれば私はもう故郷・福島へ帰るんだと固く誓っていたはずなのに、何故か私は今もこの東京郊外の町に住んでいる。東京は惰性で住める町ではない。私はまだここに何かを期待している。

正確には私達のものだったが今ではこう呼ぶしかない、彼の部屋、そこを出て行くときに、私は洗面の物置にわざとシュシュを置いてきた。私が去ったあとに彼が苛立ちか後悔かをすれば私の勝ちだが、どうなったのか私は知るよしもない。

数年一緒に暮らしただけでも恋人は似るのか、それとも私たちは元々似たもの同士だったのか。我が子のリュック、この子の唯一の荷物であるリュックの中から、彼が別れ際に忍び込ませたのであろうネクタイが出てきたときは、私は涙が止まらなかった。玉川に投げるわけにも、かと言って私やこの子がずっと持つてゐるわけにもいかないなあと、私は今日そのネクタイを彼に返しに行ったのだ。彼は笑ってネクタイを受け取り、「そのかわり」と言って泣いてる私の髪を持ち上げ、シュシュで束ねた。

帰りの電車、黄色い郊外電車に乗りながら私は、この町へ来て以来ずっと灰色だった春が少しずつ色づいていることに気がついて、早く帰って仕事を見つけなきゃと決意するに至った。

思えば彼と話すきっかけを得たのはいつかの春、鼻水の止まらない私に彼がポケットティッシュを差し出してくれたのが始まりだったではないか。

思い出し笑いをしながら思う、この町に期待していた何かはこんな決意のことではなかったし、もうあの頃の生活に戻るには必要な人が居なさすぎる。けれど、私は新し

い生活を始める決意をこの町で得た。

求めていたものとは違うなんて駄々こねることはしないよ。

プラットフォームに降りた瞬間、春の色に決意が染まる。

春は、そういう季節なのだ。

春は、あげぽよなのだ。

## あとがき

---

はじめまして。玲奈と言います。14才中学生です。

読んでくれてありがとうございます。

初めて小説を書きました。難しいですね。

次の小説も今書いているので、良かったら読者登録や、Twitterをフォローしてみてくださいね(\*´ω`\*)チケラ→ <https://twitter.com/#!/RENAPON48> @RENAPON48

コメントはもちろん、ツイートや「いいね！」をしてくれると泣いて喜びます！笑

Tumblrというサイトで絵を描いています。→ <http://renapon48.tumblr.com/>

Tumblrでは、アカウントを持っていなくても匿名でメッセージを送れます。

(´・ω・`)ココガオ→ <http://renapon48.tumblr.com/ask>

「匿名でなら感想書いてあげてもいいよー」という方は、こちらに送ってくださると嬉しいです。

玲奈